

1 学年 医学入門実習

— 将来の医師像を考える早期体験実習(全7回) —

●「医師になる」とはどういうことだろう？

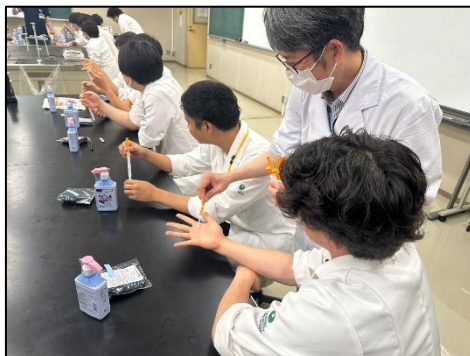
医師には高度な知識や技術だけでなく、患者さん一人ひとりの価値観を理解し、最善の医療とともに考える姿勢が求められます。この実習では、実際の医療現場に触れることで、「医学とは何か」「医療とは誰のためにあるのか」を考え、自分自身が将来どのような医師を目指したいのかを深く見つめ直します。

●実習で目指すこと

1. 医師の責任を自覚し、患者中心の医療を実践する姿勢を身につける。
2. 医療および医学研究における倫理の重要性を理解する。
3. 患者や家族の秘密を守り、医療倫理を遵守しながら患者の安全を最優先に考える。
4. 人間性を豊かにし、生命の尊厳と医師としての使命を深く認識する。
5. 自ら課題を発見し、自己学習によって解決する能力を養う。
6. 保健・医療・福祉・介護に関わる多職種の役割を理解し、協働できるようになる。

●実習内容

- ・病院配属実習：診療科の担当医に付き添い、病棟業務を見学・体験します。
- ・臨床技能実習：第4学年末に行われる OSCE の簡易版として、クリニカル・トレーニングセンターにて臨床技能実習を行い、実習で学んだ技能を実践し評価を受けます。
- ・医療面接：模擬患者さんや教員と実際の医療現場を想定した実習を行い、その技能を実践し評価を受けます。
- ・医学入門講義：現場で活躍する医師の講演を聴講してレポートを作成します。
講演内容「循環器医療の現在・過去・未来 ～君たちはどう生きるか～」
講演者 内科学講座心臓血管内科部門/高度救命救急センターCCU 大塚麻樹 先生
- ・手洗い実習：基本的な医療行為を行う際に必要な衛生的手洗いの正しい手技を習得します。今年度から医学入門実習に導入されました。



【手洗い実習の様子】

●学生の声(レポートより抜粋)

今回の実習を通して、医師になる道のりは、単に医学知識を増やすことだけではないと感じた。患者の負担を考えて検査や治療を選択する力、患者や家族に説明する力、個人情報を守る倫理観、チームの中で協力する姿勢が必要である。今後は、知識を身につけるだけでなく、臨床の場面で医師が何を考え、何を大切にしているのかを意識しながら学びたい。そして、患者が自分で不安や異変を十分に言葉にできない場面でも、その人の安全と尊厳を守れる医師を目指したい。

私は医学部に入学してから今回の実習を受けるまで、授業や学習をどこか受け身の姿勢で取り組み、将来どのような医師になりたいのかを深く考えないまま過ごしていました。しかし実際の医療現場で患者や家族と向き合う医師の姿を見て、医学を学ぶ目的は単に知識を身につけることではなく、その知識を使って患者の不安や苦痛を和らげることにあるのだと実感しました。



【臨床技能訓練（自主訓練）の様子】